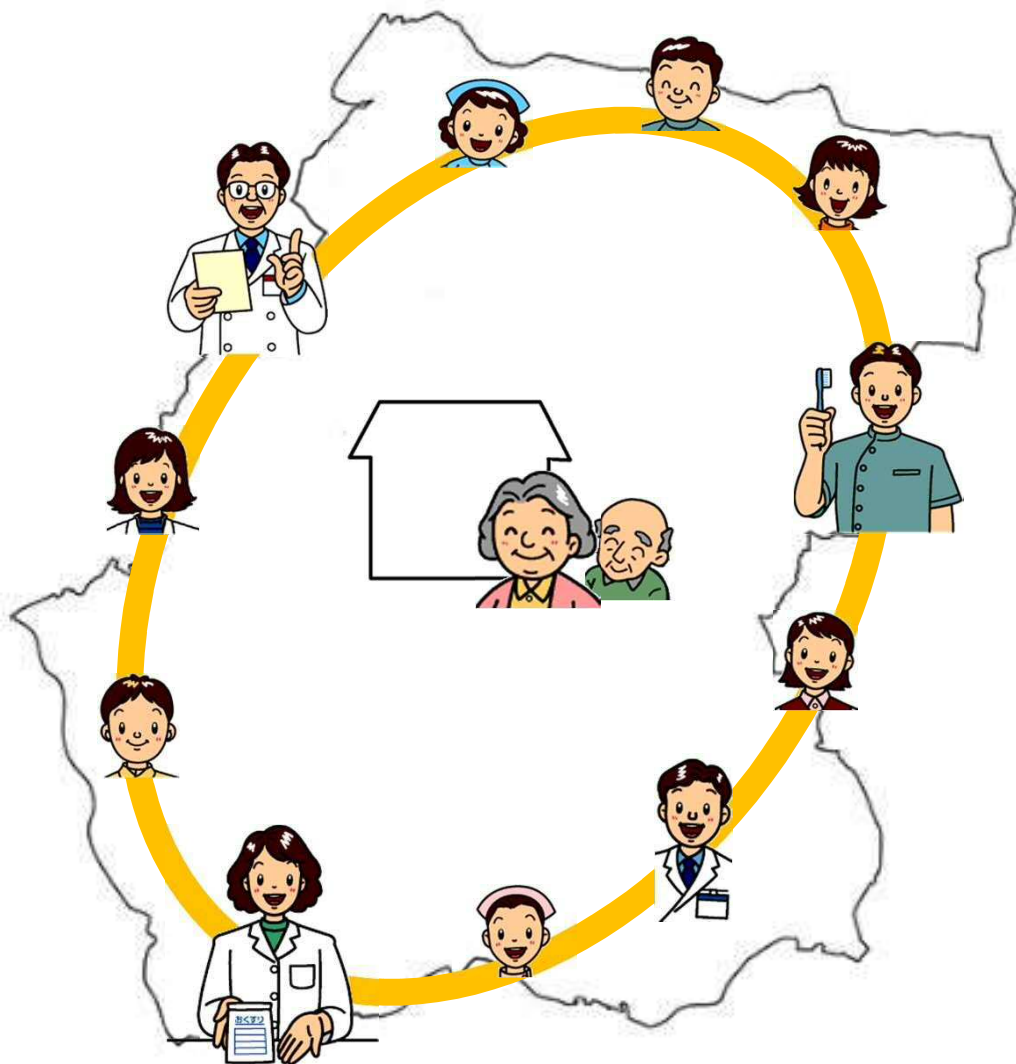


第3回 在宅チーム医療を担う多職種研修

医療と介護の連携を考えよう

～終末期の事例を通して～



日にち：平成28年10月5日（水）

主催：都筑区医師会地域多職種連携協議会

都筑区福祉保健センター高齢・障害支援課

式次第

《 開会 》 19時15分

司会 菅野 美穂
(都筑区高齢・障害支援課)

1. 開会の挨拶

都筑区医師会地域多職種連携協議会会長 水野 恭一

2. 本研修の趣旨と進行について

ケアネットつづき 上原 裕子

3. 事例紹介

ケアネットつづきケアマネ部会 渡曾 祥子

4. グループワーク

- ・自己紹介
- ・事例の確認と共有
- ・グループディスカッション

5. 発表

6. 講評

都筑区医師会地域多職種連携協議会幹事会 深澤 立

7. 閉会の挨拶

都筑区福祉保健センター長 古賀 伸子

《 閉会 》 21時30分

本研修の目的

事例を通して考える
「医療と介護の専門職それぞれの役割と連携」

理解する

- 互いの役割を理解する
- 連携の必要性を理解する

伝える

- 「自分ができること」を伝える
- 「相手ができること」を提案する

グループワークの進め方

	名前 (姓のみカタカナで記入)	職種
ファシリテーター (進行役)		
書記		
メンバー		
メンバー		
メンバー		
メンバー		
メンバー		
メンバー		
メンバー		
メンバー		

《 グラドルール 》

- 相手の意見をよく聞き、尊重する（正解はない）
- 思い付きをどんどん発表する
- 人の意見への「あいのり」大歓迎
- 批判は絶対にしない
- 発言はできるだけ短く、1回につきひとつ
- 時間は守ろう

事例紹介(15分)

グループワーク(60分)

自己紹介

5分

エコマップを作成しながら
事例の確認と共有

10分

《 エコマップ (ecomap) とは 》



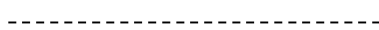
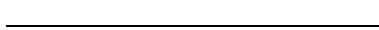
要介護者を中心として、その周辺にある社会資源（家族、兄弟姉妹、友人、近隣住民、医師、各種介護関連機関など）との相互関係をネットワークとして表現した地図のことです。「生態地図」や「家族関係地図」ともいわれます。

要介護者を取りまく情報や関係性を「図式化」「可視化」することで、より確かな見立てや情報共有の手法として利用できます。

《 エコマップの書き方 》

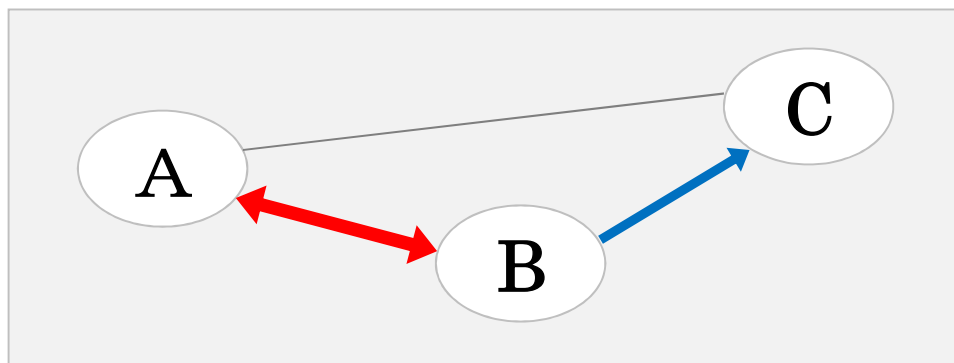
エコマップの書き方はいろいろなものがありますが、大切なことは要介護者との関係性を
①強い関係 ②普通の関係 ③弱い関係 ④対立関係
と分けて書くことです。

わかりやすさのために線の太さを変えたり、色を変えたりして表現すると良いです。
今回の研修では次のルールでエコマップを作ります。

	強い関係 実線が太いほど重要
	対立関係 ストレスまたは葛藤ある関係
	弱い関係 希薄な関係
	普通の関係

関係性の力の向きは矢印で表します。

例： AさんとBさんは**強い対立関係**にあります。
BさんはCさんに**強く関心**があります。
AさんとCさんは**普通**の関係です。



発表(30分)

2分 × 全グループ

KJ法による グループディスカッション

40分 + 5分

《 K J 法 (KJ method) とは 》

ブレインストーミング（テーマについて参加者が自由に意見を述べ、他を批判せずに多彩なアイデアを出し合う会議方法）などによって収集した多量の情報（この研修では参加者の意見）を、効率よく整理・分析するための手法のことです。

KJとは、考案者の川喜田二郎氏（文化人類学者・東京工業大学名誉教授）の頭文字。

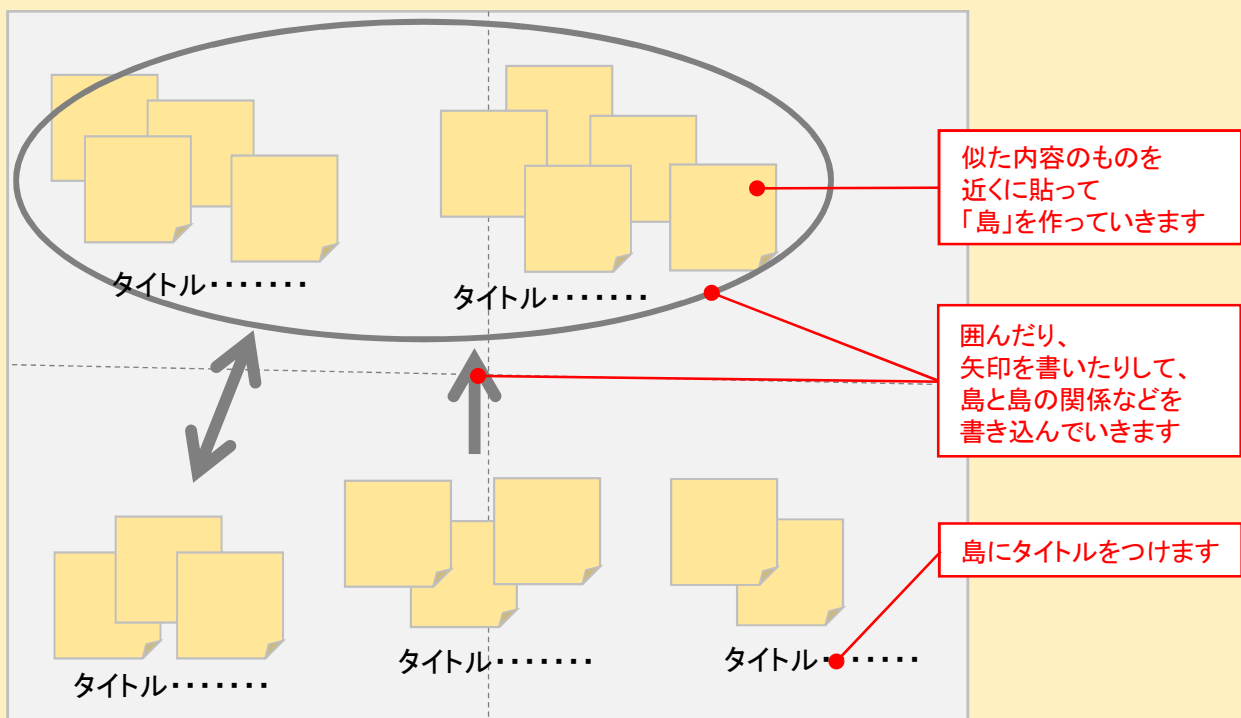
《 この研修でのKJ法 》

- ① 事例からそれぞれの職種について「気づいたこと」「こんなことができるかの(できたかも)」を、思いつくままに各自が付箋に書き出します。(付箋1枚に、内容はひとつ)
- ② 付箋に書いた内容を発言しながら、模造紙に貼っていきます。このとき、似た内容のものを近くに貼って、「島」を作っていきます。
- ③ 島にタイトルをつけ、島と島の関係なども模造紙に書き込んでいきます。



最後の5分は「まとめ」の時間です

ナビゲーターから「5分前です」のアナウンスがありましたら、まとめ作業に入ってください。



会場図

